２０１４年　３月　１７日

公益財団法人　笹川記念保健協力財団
理事長　　喜　多　悦　子　殿

施 設 名　公益財団法人　筑波メディカルセンター
筑波メディカルセンター病院

代 表 者　公益財団法人筑波メディカルセンター
代表理事　中田　義隆

２０１３年度ホスピス緩和ケアドクター研修助成
に 係 る 報 告 書 の 提 出 に つ い て

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

１．研究・研修事業　　２０１３年度　ホスピス緩和ケアドクター研修助成事業

２．期　　間　　２０１３年　４月　１日　～　２０１４年　３月３１日

３．報　告　書　　Ⅰ　事業の目的・方法

Ⅱ　内容・実施経過

Ⅲ　成果
（上記Ⅰ～ⅢをＡ４縦・横書　6，000字程度にまとめる）

Ⅳ　収支報告
①助成金の使途（人件費以外は領収書等の証憑書類を添付）
②当該助成金に関わる部分の決算書「写」
（貴機関の全会計決算書ではなく、当該助成計上部分のみで可）
※決算期の関係で２０１４年３月１７日（月）までに「写」を提出できないときは提出予定日を記入
（提出予定日　２０１４年　　６月　１４　日）

Ⅴ　研修修了者報告書

以上

平成２５年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業

筑波メディカルセンター病院　緩和医療科
診療科長　久永貴之
診療部長　志真泰夫

Ⅰ.事業の目的・方法

1）目的

本研究事業の緩和ケア専門研修においては、筑波メディカルセンター病院（以下、当院とする）での緩和ケア病棟における専門的緩和ケア研修のみならず、連携する聖隷三方原病院緩和支持療法科と日立総合病院緩和ケア外来と緩和ケアチームにおいても研修を行う計画である。

当院緩和医療科では積極的な地域医療機関・専門外来・緩和ケアチームとの連携を進めており、緩和ケアに必要不可欠な連携についても研修が可能である。そして、聖隷三方原病院緩和支持療法科では緩和ケアチームと臨床研究の基本を習得するための研修を予定している。また、茨城県内において当院と異なる役割を持つ日立総合病院での研修を通して、より広い視野を持った診療を行えるようになることを目的としている。

これらの研修を通じて１年間で緩和医療専門医として必要な知識・技能の習得を目指すことを目的とする。

2）方法

木内大佑医師（以下木内医師）は平成 18 年からみさと健和病院にて初期研修を行い、平成 20 年 4 月より当院 緩和医療科の専修医 1 期生として緩和ケアに関する幅広い臨床経験を積み、多くの終末期がん患者の診療に当たってきた。その過程において緩和の難しい苦痛症状や地域連携の新たな方略などについて、臨床疑問を持ち臨床研究の必要性を痛感し、研究の手法を学ぶことを目標の一つとした。また後進への教育に積極的に取り組んでいくことを二つ目の目標とした。そのため当院での臨床研究と教育を含む緩和医療に関する研修を行いたいとの希望があり、貴財団の「ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業」に応募した。研修年限は 1 年間とし、研修プログラムは当院緩和医療科と聖隷三方原病院緩和支持療法科、日立総合病院緩和ケアチームを組み合わせるやり方で計画する。

3）具体的な研修計画

○緩和ケア病棟研修

緩和ケア病棟における急性期の入院患者を対象として専門的な症状マネジメントやチームアプローチについて研修を行い、緩和ケア病棟における診療を会得することを目的とする。

○緩和ケアチーム研修

一般病棟における入院患者のコンサルテーションを担当し、症状マネジメントと心理社会的問題への対応を経験し、さらに、患者、家族のマネジメント、医療チームのマネジメントについてもコンサルテーションを通じて研修することを目的とする。

○　臨床研究の基本研修

緩和ケアの領域における臨床疑問を解決するための臨床研究の基本を学ぶ。研究計画書の作成、研究の進め方、論文投稿の基本的な事項を研修することを目的とする。

Ⅱ.研究事業内容・実施経過（資料参照）

○　平成２５年４月１日～平成２２年６月３０日（聖隷三方原病院緩和支持療法科）
　木内医師はこの期間、聖隷三方原病院　緩和支持療法科にて指導医（森田達也医師）の下で一般病棟のコンサルテーション診療に従事し、がん患者の抗がん治療と緩和ケアを同時に提供する臨床と緩和ケアに関する臨床研究を研修した。

○　平成２５年７月１日～平成２６年３月３１日（筑波メディカルセンター病院緩和医療科、日立総合病院緩和ケアチーム）

　木内医師は筑波メディカルセンター病院に緩和医療科専門研修フェローとして勤務し、緩和ケア病棟の病棟医として、実際の臨床を研修した。指導医の下でおよそ５０例のがん患者を担当し、専門的な緩和医療を経験することができた。その間、学生実習の指導担当を務め、また院内ローテーションの後期研修医に対して臨床指導を行った。

　日立総合病院においては、緩和ケアリソースが不足している地域における外来診療と地域連携を経験し、また院内コンサルテーションにおいても指導的役割を求められる中での緩和ケアチームの経験を積んだ。

Ⅲ　専門研修の成果

木内医師は、平成２６年４月に日本緩和医療学会緩和医療専門医を取得が内定しており、筑波メディカルセンター病院の常勤医師として緩和ケア病棟や外来診療等の専門的な緩和ケアの診療に従事し、後進の教育にあたっていく予定である。また臨床研究についても「クロルプロマジン持続皮下注射の有効性と安全性に関する多施設研究」の症例集積を行っている。

資料1

平成25年　緩和医療科フェローシップ研修プログラム

年間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研修内容	聖隷三方原病院研究研修			筑波メディカルセンター病院緩和医療科研修、日立総合病院外来・緩和ケアチーム								

週間

4月～6月

	月	火	水	木	金	土
午前	チーム	チーム	チーム	チーム	チーム	
午後	研究	研究	研究	研究	研究	

7月～3月

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟	病棟	病棟	日立外来	病棟	病棟回診（月1～2回）
午後	病棟	外来	病棟	日立チーム	病棟	

（財）筑波メディカルセンター